

2021年度 自己点検・自己評価と学校関係者評価 総括表

カテゴリー	評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価	
I 教育理念・教育目的	1-1 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	3	2.7	労働者健康安全機構の理念(勤労者医療の充実)に基づき、地域社会に貢献できる看護師の育成を目指すことを掲げている。 看護師養成所及び専修学校として認可を受けており、教育理念・目的とも法的整合性を備えている。 教育理念・目的は入学時に配付する学生便覧に明記し、入学時ガイダンス等で説明している。 教育理念・目的を踏まえて教育目標が作成され、学年別に到達目標が設定されている。 教育理念において、「独立行政法人労働者健康安全機構の使命に基づき、人間愛と生命に対する尊敬を基盤とした豊かな人間性を培い、勤労者医療に貢献できる看護の実践者として、生涯成長し続ける人材の育成を目指す」とこととしている。 2022年の新カリキュラム改訂に向けディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)を作成した。 その他、文章化されていないものに関して明文化していく。	3	2.7	教育理念・教育目的は労働者健康安全機構の使命及び理念が反映されており、育成すべき人材、教育内容についても明示されている。	
	1-2 教育理念・教育目的は法との整合性がある。	3			3			
	2-1 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	3			3			
	2-2 教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	3			3			
	3-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。	3			3			
	3-2 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるかを述べている。	3			3			
	3-3 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるかを述べている。	3			3			
	4-1 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	2			2			
	4-2 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。	2			2			
	5-1 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	3			3			
5-2 卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	2	2						
II 教育目標	1 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	3	2.9	教育目標は、教育理念・目的と一貫している。 教育目標は、人間理解のための能力育成や、科学的根拠に基づいた基礎的能力の養成、倫理や制度の理解とそれを実践するための能力養成等、7つの目標が設定され、看護師育成に必要な内容を網羅している。 「専門職業人としての看護の探究心を持ち、自ら学習し続ける態度を養う」ことを到達点としている。 教育目標は、人間性の育成に始まり、基礎的能力、知識の習得とそれを活用・実践するための能力養成が段階的に示されている。 教育目標は学年別到達目標を学生が理解しやすいよう表現を変更している。 教育目標は人間性育成や基礎的能力の養成といった能力育成面と、専門職業人として探究心を持ち自ら学習し続ける成長促進面から設定されている。 教育目標において、「専門職業人としての看護の探究心を持ち、自ら学習し続ける態度を養う」ことを定めている。	3	2.9	教育目標についても、教育理念・教育目的と一貫しており、育成すべき人間性や基礎的能力が段階的に示されている。 教育目標は学年別到達目標を定めており、学生が理解しやすいよう表現を変更する等、工夫が認められる。	
	2-1 教育目標は、設定した教育内容を網羅している。	3			3			
	2-2 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。	3			3			
	3-1 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。	3			3			
	3-2 教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。	3			3			
	4 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	3			3			
	5 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	2			2			
III 教育課程経営	教育課程経営者の活動	1-1 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	2	2.5	教員会議・教務会議等において編成等を協議している。教育評価を教員で実施中。 教員会議・教務会議等において教育理念に基づいた教育課程の実施に努めている。	2	2.5	自己評価について支持する。
		1-2 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	3			3		
	教育課程編成の考え方とその他の具体的な構成	1-1 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3	2.3	学年教育計画を作成し、教育課程、授業科目を設定している。 学修到達度については技術経験録において明らかにしている。 専門職業人としての看護の探究心を持ち自ら学習し続ける態度については、到達度を計ることが難しいことからディプロマポリシーを作成し目標達成を進める。 平成21年度カリキュラム改定時に教育課程、授業科目の設定理由を明示。 単元構成に根拠等はあるが明文化できていない。2022年度のカリキュラム改正に向け検討中である。 教育科目と単元は教育理念・目的、教育目標を踏まえて設定している。 構成科目は指定規則を遵守している。 労働者健康安全機構の使命である勤労者医療を担う看護師育成を目指した科目構成となっている。	3	2.3	学生の成長面については、自己評価(行動計画)に記載されているとおり、新カリキュラムに向けディプロマポリシー等に基づく教育目標を具体化し、教育内容を明示すること。
		1-2 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2			2		
		1-3 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	2			2		
	科目、単元構成	1-1 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	3	2.8	単元構成に根拠等はあるが明文化できていない。2022年度のカリキュラム改正に向け検討中である。 教育科目と単元は教育理念・目的、教育目標を踏まえて設定している。 構成科目は指定規則を遵守している。 労働者健康安全機構の使命である勤労者医療を担う看護師育成を目指した科目構成となっている。	3	2.8	自己評価について支持する。 明文化できていないものについて整備に努めることとし、経過報告を行うこと。
		1-2 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	3			3		
		1-3 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	2			2		
		2-1 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である	3			3		
	2-2 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	3	3					
	教育計画	1-1 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	3	3.0	学則に単位履修の認定について明示し、学生便覧に掲載、学生及び教職員に配付している。 各授業科目の履修が該当年度で出来なかった場合、進級後の学年授業科目と並行して履修できるよう調整をしている。 教育課程の考え方を基に教育体系を示し、教育計画を立てている。	3	3.0	自己評価について支持する。
		1-2 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	3			3		
		2 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3			3		
	教育課程評価の体系	1-1 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3	2.6	学則及びシラバスに単位認定の基準・方法を明示している。 単位に互換性を持たせている。 自己点検・自己評価検討委員会規程を定めている。 「実習における患者への倫理的配慮に関するガイドライン」を作成し運用している。	3	2.6	自己評価について支持する。
		1-2 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	3			3		
		2 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3			3		
		3-1 教育課程を評価する体系を整えている。	2			2		
		3-2 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	2			2		
	教員の教育・研究活動の充実	1-1 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	2	2.0	教員が専門性を発揮できるよう、実務経験者を担当に配置するようにしているが、実習指導やクラス担任等の役割負担も多いため、十分とは言えない。教員が専門性を発揮できるよう労災病院等と連携し計画的な教員の確保に努める。 年1回程度の学会参加について、時間的・予算的に保証するシステムがある。 システム化はしていないが、学会等に参加した職員が伝達講習を実施している。	2	2.0	自己評価(行動計画)について、機構本部とも調整組織的に取り組むこと。
		1-2 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	2			2		
2-1 教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。		2	2					
2-2 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。		2	2					
学生の看護実践体験の保障	1-1 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	3	2.6	同じ組織である労災病院については理解を得られているが、外部組織については十分とは言えない。実習施設も有るため、学校案内パンフレット等を活用し説明に努めている。 コロナ禍で実習受入できない施設もあったが、オリエンテーションのみ現地で行ってもらう等の体制をとった。 実習開始時や実習期間中において、当校教員と実習指導者で打合せを行っているが、役割分担等において明文化されていない部分もあるため、実習要綱等の見直しが必要である。 実習指導者会議を定期的に開催し実習目標の確認や教育方法についての検討を行っている。 実習要綱に対象者への説明と同意、個人情報保護、安全性の確保等について明示している。 実習開始時のオリエンテーションにおいて説明を実施している。 実習要綱にインシデント発生時の対応方法を明示し、インシデント等発生時の状況把握と対応・分析、再発防止策の策定を徹底している。 実習開始時のオリエンテーションにおいて安全対策について説明を実施している。	3	2.6	今後、競合する専門学校や大学の影響により実習施設の確保が困難になることが予想されるため、自己評価(行動計画)にある事項を継続的に取り組み、実習施設との連携を密に保つこと。 また、コロナ禍による実習受入不可の場合の代替措置を継続して検討すること。	
	1-2 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	2			2			
	2-1 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	2			2			
	2-2 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	2			2			
	2-3 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	2			2			
	3-1 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3			3			
	3-2 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	3			3			
	4-1 臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3			3			
4-2 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	3	3						

カテゴリー	評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価
IV 授業・学習・評価過程	授業内容と教育課程との一貫性/看護学としての妥当性/授業内容間の関連と発展	1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。	3	授業内容は教育課程の考え方を基に設定され、学生便覧に明示している。 授業内容のまとまりは明確化はされていないものの、科目目標との整合性を持ち、看護学の教育内容として妥当性を持っている。	2.4	自己評価について支持する。 より良い実践的教育を行うため、自らの教育活動において学生のニーズを踏まえた目標を設定しその達成に向けPDCAサイクルを用いた継続的な改善を図ること。また、コロナ禍等による当校制限時にも柔軟に対応できる授業体制の維持に引き続き努めること。
		2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3			
		2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	2			
		3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	2			
		4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	2			
	授業の展開過程	1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	3	科目目標と授業内容に応じて授業形態を選択している。今年度はコロナ禍による登校困難の際にリモート(Zoom)を活用した講義も行った。 グループワークや演習を行う場合は目標や方法を学生に明示している。 授業内容や指導方法が学生のレベルに合うよう工夫している。 看護技術実習等、協力が必要な場合は教務会議等において検討している。	2.5	2.5
		2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	2			
		3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	3			
		4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	2			
	目標達成の評価とフィードバック	1-1	評価計画を立案し、実施している。	2	学生による授業評価を実施し授業の改善に努めている。 授業評価の項目に学生の自己学習力と、教員の教育活動評価の項目を設定している。 教育目標に合わせて、筆記試験、実技試験、レポート提出といった評価方法を取り入れ達成状況を確保している。 学則やシラバスに単位認定のための評価基準と方法を定め、学生便覧に明示している。 単位認定に当たっては、学則に基づき成績評価を行い、学校運営会議にて承認を得ている。	2.3	2.3
		1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	2			
		2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	2			
		2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。	2			
		3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	3			
		3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。	3			
	学習への動機づけと支援	1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	3	シラバスは目的や到達目標、授業計画を具体的に記載している。 シラバスは授業評価等を踏まえて見直しを行っている。	2.5	2.5
1-2		シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	2				
V 経営・管理過程	設置者の意思・指針	1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	3	労働者健康安全機構の理念に基づく教育理念・目的を学生便覧等で明示している。 教育課程、経営の考え方については、「運営計画書」「学校案内」「学生便覧」に明示し学校運営会議や学校説明会等で周知を図っている。 機構の内部業績評価及び自己点検・自己評価マニュアルにて明示している。 管理運営についても、「運営計画書」「学校案内」「学生便覧」に明示し学校運営会議や学校説明会等で周知を図っている。 学校運営計画は機構の理念及び運営方針を踏まえて策定されている。 毎年実施している機構の職員アンケート調査では90%以上の職員が「機構の理念等」を理解している結果となっている。	2.7	自己評価について支持する。
		1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	3			
		1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	2			
		1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	2			
		1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	3			
		1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	3			
	組織体制	1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	3	組織体制は、労働者健康安全機構の組織規程により明確に定められている。 学校運営会議等において、教職員の意見が反映される機能が整備されている。 学校運営会議等の決定事項は速やかに役職員へ周知される機能が整備されている。 組織構成、職員の任用は規程で定められており、教育理念・目的と整合性を持っている。 教職員は教育理念・目的を達成するための本部研修や学会等に参加できる。	2.7	自己評価について支持する。
		1-2	意思決定システムが明確になっている。	3			
		1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	2			
		1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	3			
		2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	3			
		2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。	2			
	財政基盤	1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	3	財政基盤の成り立ちや確保については、運営計画書に記載し、教務会議等で職員に説明している。 学校運営会議における教職員からの意見は運営計画においても反映されている。	2.3	自己評価について支持する。
		1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	2			
		2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	2			
		2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようにしている。	2			
	施設設備の整備	1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	2	運営計画において、機器整備や設備改修の必要性を検討、実施している。	2.0	自己評価について支持する。
		1-2	管理者の考え方に基いて整備計画を立案し、実施している。	2			
		2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	2			
		2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	2			
		3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している。	2			
		3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	2			
	学生生活の支援	1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	3	学生は当機構と日本学生支援機構の奨学金制度、高等教育の修学支援制度、学生寮の完備といった経済的支援を受けることができる。また、健康面、学習面については学年担任のほか、スクールカウンセラーも配置し、サポートできる環境を整備している。	3.0	自己評価について支持する。
		1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	3			
1-3		支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	3				
養成所に関する情報提供	1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。	3	入学時に保護者会を開催し本校の教育理念や学則等について説明を行うこととしているが、今年度はコロナ禍により開催できなかったため、文書での説明となった。また、必要に応じて保護者に電話等で情報提供した。 コロナ禍のためオンラインスクールが開催できなかったため、感染対策を講じ規模を縮小した学校説明会を2回開催するとともに、ホームページを活用し入学案内等の情報を公開している。	2.3	自己評価について支持する。	
	1-2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	2				
	2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	2				
養成所の運営計画と将来構想	1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	3	運営計画において、中・長期、年間計画を策定している。	3.0	自己評価について支持する。	
	1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3				
自己点検・自己評価体制	1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	3	当初、自己点検・自己評価は学校関係者評価が未実施であったことから低調となっていた。今後は評価結果と学校運営会議等で周知し、継続的に取組み学校運営に活用することとしたい。	2.4	自己評価に当たっては、学校関係者評価を実施し、その意見を活用すること。	
	1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	2				
	2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3				
	2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	2				
	2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	2				

カテゴリー	評価項目	評価	平均	自己点検・自己評価(行動計画)	評価	平均	学校関係者評価	
VI 入学	1 教育理念・教育目的の一貫性をもって入学選抜についての考え方を述べている。	3	2.5	入学者は入学試験規程及び入学試験合格決定基準に基づき当校の教育理念・目的を達成できうる者を選抜している。	3	2.5	自己評価について支持する。	
	2 入学者状況、入学者の推移について、入学選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。	2			2			
VII 卒業・就業・進学	1 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3	2.5	卒業者は履修単位と看護技術習得を認めた者を卒業判定会議にて決定している。 履修単位及び技術習得状況については分析している。 卒業生就業状況調査を実施し把握している。 卒業生は労災病院へ就業するため、教育理念・目標との整合性がある。 卒業生は労災病院へ就業するため、評価等の情報は把握しやすく、情報交換や調査の実施体制は整備されているが、就業先での評価や活動状況の把握、分析については未実施である。	3	2.5	卒業生の活動状況や評価については、関連施設の協力も必要なため時間を要すると考えられるが、今後も継続的な取り組みに期待する。	
	2-1 卒業時の到達状況を分析している。	3			3			
	2-2 卒業生の就業・進学状況を分析している。	3			3			
	2-3 卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。	3			3			
	3-1 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。	2			2			
	3-2 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	2			2			
	4-1 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。	2			2			
	4-2 卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。	2			2			
VIII 地域社会／国際交流	地域社会	1-1 社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	2	2.0	地域医療の充実のため、優秀な看護師を育成している。 市のホームページ等から情報収集は可能だが、それ以外の手段は有していない。 本校のホームページから情報発信することができる。 地域特徴の把握については十分ではない。 地域内に活用できる情報資源等がない。	2	2.0	地域社会の情報については今後、情報収集に努め、社会のニーズと機構の理念等に合致した優秀な人材を確保するよう務めること。
		1-2 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。	2			2		
		2-1 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	2			2		
		2-2 養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	2			2		
		3-1 養成所が設置されている地域の特徴を把握している。	2			2		
		3-2 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	2			2		
	国際交流	1 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。	2	1.8	基礎教育分野において、海外の動向等の講義を取り入れている。 情報科学室にインターネット環境を整備している。 体制は整備できていない。 留学等希望者向けに英訳した成績表を作成することができるが、体制は十分に整備できていない。	2	1.8	海外からの帰国学生、留学生の対応については、機構本部とも協議が必要な事項と考える。
		2 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	2			2		
		3 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	1			1		
		4 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	2			2		
IX 研究	1 教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	2	2.0	研究活動のための財政的支援体制は整備しているが、時間的余裕がない。 労働者健康安全機構で教育研修体系が整備されている。 研究に取り組む文化的素地はない。	2	2.0	機構全体の研修を活用し、教員等の資質向上に努めること。	
	2 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	2			2			
	3 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	2			2			
-	全項目平均値		2.5	全項目平均値		2.5	-	

【評価尺度】 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない